



「西村捨三」って誰だ？



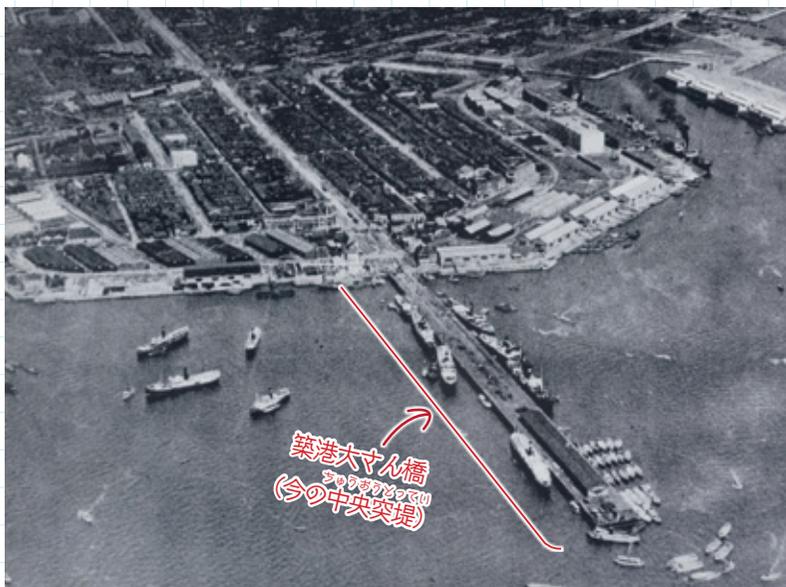
ちゅうこうじ むしよ しよだいしよちょう おおさかこう
築港事務所の初代所長。大阪港をつくる
 ことはかれの長年のゆめでした。技術や材料の
 不足にも負けず、現場で指揮をとり続けろ
 大阪港築港のいちばんの功労者です。第
 6代大阪府知事でもあります。



1868 (明治元) 年に開港した大阪港。当時は安治川の河口近く (今の西区) に港がありました。しかし、川がせまくて浅く大型船が入れなかったため、外国との貿易の場はだんだんと神戸港にうつり、1876 (明治9) 年以降、大阪には外国船が入港しなくなっていました。これは、大阪にとって大きな痛手です。

そのため、海の入口にある天保山に大きな港をつくることは、**西村捨三**をはじめ大阪市民の長年の願いでした。しかし、たびたび計画は持ち上がるものの、工事がむずかしく、ばく大な費用がかかることから、なかなか実現しませんでした。

やがて技術者や多くの人びとの努力がみのり、当時の市予算の20数倍にあたる費用が市の議会で認められ、1897 (明治30) 年、いよいよ港をつくる工事がはじまりました。工事は



かんたんには進みませんでしたが、「日本のために大阪港をつくらう」という西村捨三の強い意志のもと、1903 (明治36) 年に全長455m、幅27mの**築港大さん橋** (大型の船を横づけできる大きなさん橋) が完成しました。その後、1929 (昭和4) 年に第1次工事が完了し、大阪港は経済都市大阪の基礎になりました。

1929 (昭和4) 年、完成した当初の大阪港 (「大阪港のあゆみ」より)

1868
(明治元)年
大阪港開港

1903
(明治36)年
築港大さん橋完成

1947
(昭和22)年
大阪港修築 10 カ年工事がはじまる

1887 (明治20)年
ヨハネス・デ・レーケ、1880(明治13)年から着手していた築港工事計画書を内務省に提出。
(1894 (明治27)年の修正版が最終計画になる)

1897
(明治30)年
大阪港第1次
修築工事がはじまる

1929
(昭和4)年
大阪港第1次修築工事がおわる
大阪港第2次修築工事がはじまる (戦争よりのちに中断)



ここは注目！大阪港の
ためにまちの人もみず
から動いたんだね。

1889
(明治22)年
市民有志が築港研究会をつくる。
1892(明治25)年に市参事会に
築港要望の建議書提出

1937
(昭和12)年
大阪港の入港船舶数が
日本一になる



(「大阪港のあゆみ」より)

● もう一人の大阪港の産みの親「ヨハネス・デ・レーケ」

大阪港をつくるために現場で指揮をとったのは西村捨三ですが、その計画を考えたのがオランダ人技師ヨハネス・デ・レーケです。治水や港をつくる技術の向上のために、明治政府に招かれて日本にやってきました。大阪港をつくるためには、上流から土砂を運んでくる淀川の工事が必要だと考え、大阪港築港の計画とともに、淀川の改良工事の計画をつくりました。



西村捨三は、彦根藩(今の滋賀県)で建築などの仕事をつかさどっていた西村又治郎のもとに生まれ、藩主の井伊直憲に仕えました。1872(明治5)年には、直憲の欧米留学にお供し、行政のしくみや最新の土木技術などを学びました。

天保山公園にある「西村捨三翁の像」を見に行ってみよう！ いい表情で、本人さっくりらしいよ。

🔍 調べてみよう！ ①

大阪府知事のときも大阪の発展のために活躍した西村捨三。どんなことをしたかな？

たんけんポイント



④ 西村捨三翁の像
(天保山公園)

地下鉄中央線「大阪港」駅
②出口より約500m

⑤ 中央突堤

地下鉄中央線「大阪港」駅
①出口より約450m

🔍 調べてみよう！ ②

明治時代の大阪港の工事にたくさん使われた「犬島石」。いったいどの石だろう？



明治時代、二階つきの電車が港区を走っていた？



かつて大阪のまちを走っていた大阪市電。1903(明治36)年9月12日、大阪ではじめての市電(路面電車)が、ここ港区を走りはじめました。翌年にはなんと二階つきの電車が登場し、大人気となりました。



1903(明治36)年、築港大さん橋が完成し、「花園橋」(今の西区九条新道)から「築港棧橋」までの約5kmの間に、大阪ではじめての市電が走りました。停留所は10カ所、片道26分かかり、定員はわずか42人でした。



市電開通当時の切符
(天理大学附属天理参考館蔵)

市電が走る前の港区は、まだあまり発展した地域ではなく、のどかな風景のなかに築港大道路(今のみなと通)がつくられ、その真ん中に市電の線路がひかれて、電車が走りはじめました。

海外との貿易のためにつくられた築港大さん橋でしたが、完成したばかりのころは大型船の利用が少なく、代わりに夕涼みと魚釣りの市民でにぎわいました。市電もこうした人たちがよく利用しており、運転台の前に釣りざお入れを取りつけるサービスをしたので、「魚釣り電車」とも呼ばれました。

港区でスタートした市電は、その後、順調に路線をひろげ、大阪港の繁栄や港区の商業・工業の発展とあわせて、多くの利用者でにぎわうようになります。戦争で被害を受けた後もいち早く復興し、重要な交通機関として活躍しましたが、やがて交通手段の中心はバス・地下鉄へとうつり変わり、1969(昭和44)年に市電は市内からすべて姿を消しました。



市電第一号

1903(明治36)年
大阪市初の市電「築港棧橋」～「花園橋」間 開通

1969(昭和44)年
大阪市電全線廃止

1960(昭和35)年
地下鉄工事のため、市電築港線「港車庫前」～「大阪港」間が休止。
(1964(昭和39)年にそのまま廃止)

1961(昭和36)年
国鉄(今のJR)「弁天町」駅開業。大阪環状線開通。
大阪市高速鉄道第4号線(市営地下鉄中央線)
「弁天町」駅開業。「大阪港」～「弁天町」間、開通

それまで「西九条」～「天王寺」間が繋がっていなかった大阪環状線。「弁天町」駅の開業がどのようにつながりました。



●「弁天町」駅の名前のひみつ

市電に代わってバスとともに人びとの足になった地下鉄。地下鉄とJRが交差する「弁天町」駅は、1961(昭和36)年に、国鉄(今のJR)大阪環状線、大阪市高速鉄道第4号線(市営地下鉄中央線)の開通とともに開業しました。

実際に駅がある場所は「市岡」でしたが、開業当時、国鉄にはすでに市岡駅(岡山県新見市)があったため、駅の近くの町名「弁天町」が駅名となりました。弁天町の町名は、市岡新田会所にまつられていたという、七福神の一人で水に縁のふかい神さま、弁才天(弁財天)の名前からつけられています。



大阪市高速鉄道第4号線(市営地下鉄中央線)「大阪港」～「弁天町」間は地盤沈下がはげしく、高潮の被害が多かったため高架式の地下鉄になり、「空を走る地下鉄」「港の見える地下鉄」として話題になりました。

高い位置を走る地下鉄から見る港区のまちなみは見ごたえたっぷり。「弁天町」駅ではJR大阪環状線の上を走ります。

🔍 調べてみよう! ①
港区のとある小学校には、昔、大阪市電の車両を使った図書館があったらしい?

たんけんポイント



⑥「弁天町」駅
(地下鉄中央線、JR)

🔍 調べてみよう! ②
大阪市内に「市電保存館」があるらしい? / なんと広島県で、今でも大阪市電の車両に乗れる!?